受入ID-1520030116B00209

昭39.7.14

釜渕分場20年

内　容

・沿　　革
・試験研究の概要
・参考林と試験地
・試験研究業績
・在職職員名簿

昭和31年2月1日

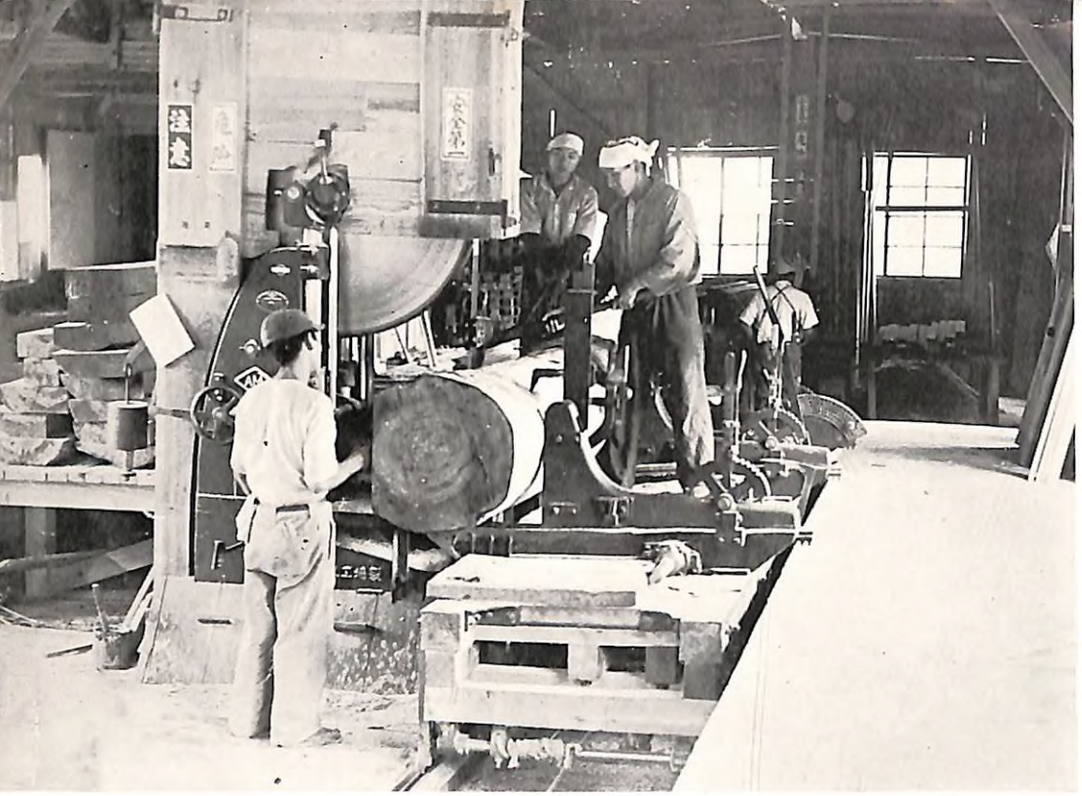
02000-00130321-1

試
北
6

農林省林業試験場

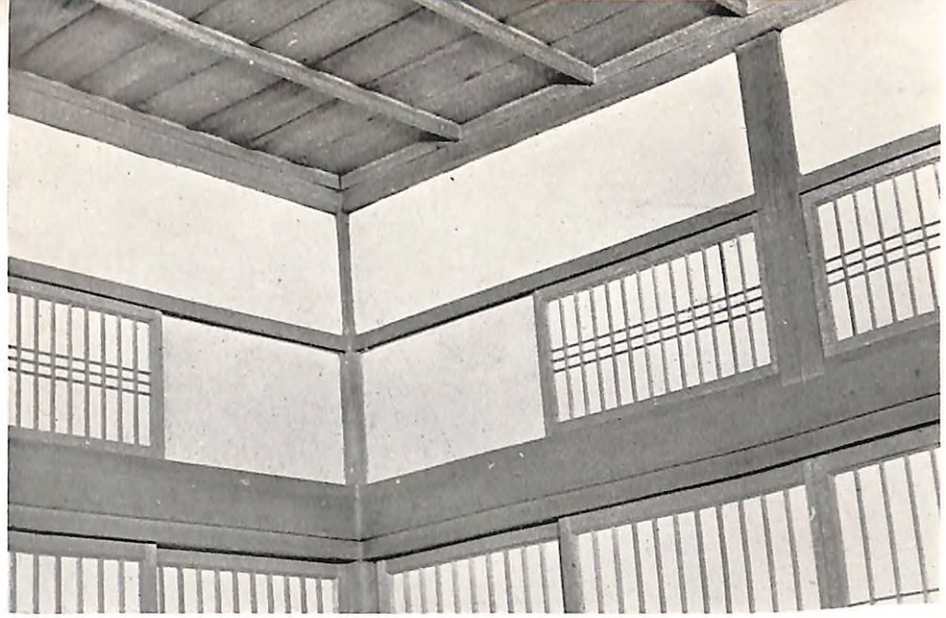
秋田支場釜淵分場

山形県最上郡及位村大字釜淵



↑　製材木取室の内部

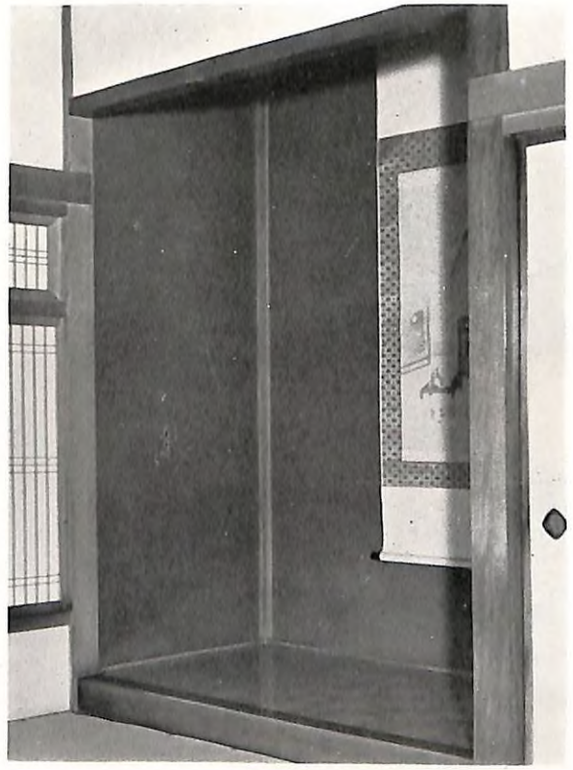
↑　製材木取室（昭和25年撤去）



（その 1）

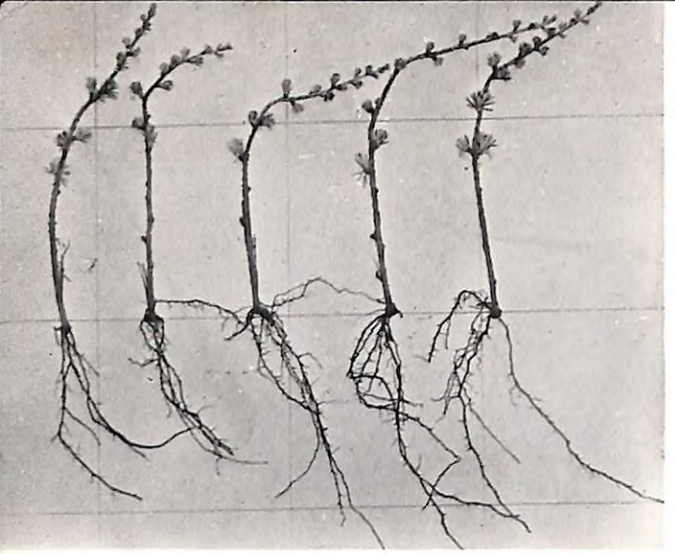
ブナの間

（昭和11年度竣工）



（その 2）

（その 3）



← カラマツの挿木苗
（昭和16年）

↑ ブナ材穿孔虫の防除試験

↑ 交配種ポプラ
（昭和18年交配）

← 試験苗畑の一部

↑ 交配種ポプラの山地植栽試験地
（昭和28年植栽）

↑ ヒメスギカミキリとその蝕痕

↑　量水試験地
左は無林地
右は有林地

↑　斜面浸透の試験

←　模型による冠雪の試験

沿　革

山形県の最北部，奥羽本線の小駅〃かまぶち〃は，冬ならば鉛色の空から毎日雪がちらついている。

山も谷もすべて雪におおわれているが，駅前にでてはじめて，ここに数十戸の部落のあることがわかる。家のまわりは何度目かの雪おろしで一層雪が高くなつている。

そのうえ〃おんだれ〃とよばれるよし簀や，たいていは鉋かけをしていないバタ木にちかい板で家の側面全部をとりまく〃雪囲い〃がしてある。やつと入口をみつけて一歩家の中にはいると，しばらくは何も見えない。奥の部屋に 16 燭光のはだか電球がポツンと灯いている。

おしえられたとおり，部落をはなれて線路をよこぎり，防雪林をぬけていくと，〃試験地〃がみつかる。山を背に，階段状にかまえた建物の集落は峡谷の温泉地を思わせる。

昭和9年，真室川営林署はここに貯木場と製板工場をつくつた。当時国有林では直営の広葉樹製材工場を各地にもうけたその一つである。土地の人達は〃官行の製板場〃，もつと略して〃官行〃とよんでいた。これらの建物ができる前は，この辺一帯はスギとトネリコの造林地と湿地帯であつた。そしてこの貧弱なスギ造林地のまん中には，現在でもそのままのこつている部落民共有の火葬場がある。20 年後の今日でも，夜はキツネが横行し，凄惨ななき声をきくのであるから，当時のさびしさがおもいやられる。

こんなところにできた貯木場と製板場であるが，わずかな田畑と炭焼以外には，ほとんど収入のなかつた部落民にとつて，現金収入へのみちがひらけたことでしだいに活気づいた。そこへ〃試験地〃ができることになつたのである。

昭和9年というと，凶作と不況のため，とくに東北地方の農山村は疲弊のどん底にあつた。そして農村経済更生運動がはじまつたころのことである。

時の林業試験場長，藤岡光長先生は，日本一の貧乏村をとくにえらび，試験地設定によつてこの村がすこしでもうるおえばというお考えから，この釜淵に〃試験地〃をおくことにされたという，神話のようないい伝えが今にのこつている，それほどの寒村であつた。

昭和10年11月7日には試験地設定の正式の告示があり，ただちに建設がはじまつている。当時の真室川営林署長，柴田栄氏は，作業試験室，製材工場，木工試験室，付属官舎3棟（当時営林局所属，戦後試験地へ保管転換された）などの落成するまで試験場兼務で重責を果されたものだが，開庁式をまたずに転出された。

昭和 11 年2月1日は，いよいよ農林省林業試験場釜淵試験地としての開庁式がおこなわれた。当日は釜淵有史以来のできごとでもあつた。山林局長，場長，知事，営林局長，営林署長などの高官，その他官庁，業界の代表者や名士などを加えて百名ばかりが，この小さな部落に集つたのであるから，地元民は目をみはつた。こうして，広葉樹の製材，乾燥，加工などの利用方面の試験と業界への技術普及，さらに広葉樹の蓄積の多い東北地方の振興という重大使命をおびた試験地が発足した。2月 17 日には初代主任として斎藤美鶯氏が任命された。

その後間もなく，研究室，木材乾燥室，研究員官舎などが完成した。木工試験室は製板場の付属であつたが，斎藤主任が真室川営林署兼務で，営林局署とも密接な連けいをもちながら，試験の実行その他一切の実施に当つた。

おおくの試験研究と指導普及の業績はつねに業界に直結していた。昭和 12 年には，森林治水試験の一環として気象観測舎，量水堰堤が設置された。

ちようどその頃，構内の一角に，小さいながらも一宇の祠が建立された。戦時精神高揚の落し子ともいえるものだろう。そして終戦までは毎年お祭りが盛大に行われ，ときには神前で相

撲大会が開かれた。しかし，近頃では，付近の小母さん達が，晩秋の小春日和にささやかな宴をはつて，わずかに山神をなぐさめている，のどかな風景がみられるだけである。

昭和 14 年には官舎が 2 棟増え，また間伐材利用試験として簡易パルプ試験工場ができた。15 年には造林試験施設として苗畑，堆肥舎，作業舎などがつぎつぎと設けられ，またベニヤの製造機械も入つた。さらに 16 年には，トチの実，ドングリなど樹実加工の設備も加えなければならなくなつた。そしてこの頃には大戦ぼつ発前夜のあわただしい緊迫した空気がみちてきた。

不安な世情のうちにも，この試験地は年ごとに成果をあげるとともにますます拡充をつづけた。その間，見学者はもとより，各地官営，民営の製材，木工の技術者や，木材乾燥，パルプ，テックスの技術者が受講のため跡をたつことがなかつた。谷間の部落釜淵もこれに呼応してますます活気をおび，多くの技術をおぼえ，木材加工を主産業として発展していつた。

やがて大戦をむかえた。試験地主任をはじめとして多くの職員は次々と召集されてゆき，男は半数にも足りないようになり，また試験研究のすすめ方にも戦時色が濃くなつたことはいうまでもなかつた。女子目立工の養成，国産帯鋸使用試験，航空機材の木取の研究，軟質繊維板（テックス）の製造および改良試験，樹皮の利用，採油試験などはこの数例である。その上食糧増産，勤労奉仕，防空演習など，ごたぶんにもれず，ここでも多くの時間と労力をさかなければならなかつた。

昭和 20 年，ようやく終戦となつたが，やはり戦争の傷手は急にはなおらなかつた。それに翌 21 年ころからは当試験地の進路に大きな転換がはじまろうとしていた。主任や林産関係の職員はぼつぼつ本場に転勤していき，日ごとに心細い状態となつた。それでも林産部門の製材加工，林産繊維，作業試験などは昭和 24 年まで残つていたが，ちくじ造林，施業，保護，防災の林業部門の陣容と交替していつた。

営林署の製板場は 22 年から民営の単板工場とかわり，〝官行〟時代に働いていた人達は，この新しい単板工場とか，その隣にできた製材工場などに吸収されていつた。前者は現在の単板工場，すなわち北新加工株式会社釜淵工場であり，後者は製材，フローリング製造工場の〝まる釜〟こと釜淵木材工業株式会社である。

昭和 22 年にはまた，林政統一にともなつて，この試験地の名称も，農林省林業試験場秋田支場釜淵分場とかわつた。つづいてもつとも大きな転換として，林産関係の試験研究がすべて本場に集中することになつた。創立以来の表看板がすつかり塗りかえられることになつたわけである。これは林産研究の能率化ということでもあつたろう。しかしこの地方のように，ようやく発展途上にある林産関係の工場の多い地元からすれば，手近かな指導機関を失つて大きな傷手であつたにちがいない。この林産関係の職員や施設の移転には昭和 27 年までかかつた。

とにかく，これで当場の内容が一変した。それまで　防災，造林，経営，保護の各研究員が全部一室に同居していたのが，それぞれ一部屋づつをあてがわれ，人の配置転換もあつて，名実ともに林業部門の試験場らしくなつた。

製材工場，製品置場などの建物は取りこわし処分され，パルプ試験工場は，いまの庶務室，分場長室，講堂，医務室などのある本庁舎に生れかわつた。

建物がとりこわされたあとはテニスコートになり，製品置場あとは低温室になつた。

もとの林産関係に従事した人達の一部も，現在それぞれの研究室に属し，新しい試験ととりくんでいる。林業試験の成果もちくじあがりつつあるといえよう。

1. 製　　材

主として，広葉樹利用の完璧を期するため，昭和 11～21 年までは (1) 木取および貯材に関する試験，(2) 木材鋸断の理論および所要動力に関する試験，(3) 製材，木取，目立の理論および技術に関する試験を行つた。

その後 24 年まで，とくに製材，木取法の確立，および鋸目立仕上法の改良に関する試験をつづけた。

2. 木　　工

製材と同様，昭和11～21年まで，主として広葉樹利用の目的で，(1) 鉋削理論および所要動力に関する試験と (2) 木工木取鉋刃研磨の理論および技術に関する試験を行つた。

3. 乾　　燥

昭和 11～21 年まで，木材の天然および人工乾燥の理論と乾燥技術に関する試験，ならびに乾燥装置の試作試験など行つたが，重点は実際の技術指導におかれた。

4. ベ ニ ヤ

昭和 15 年から単板の製造技術および経済に関する試験を行つた。

5. パルプおよび繊維板

主として間伐材利用の目的で，昭和 15 年からソーダパルプ製造機械の性能調査，スギ，ヒバのソーダクラフトパルプ製造時の蒸解試験および，濃縮試験，また 15 年には，植物性人造板の新原料と製法に関する試験を行つた。その後軟質繊維板製法の改良，木材接着剤としてのヴィスコースの利用などに関する諸試験を 24 年までつづけた。

6. 特殊林産

昭和 16 年から戦時中にかけて，コシアブラ，スギ葉などからの採油試験，およびトチ，ドングリなどの樹実利用に関する試験を行つた。

7. 作　　業

創立以来製材研究のかたわらブナ材の管流，手びき鋸の研究等作業研究を施行しておつたが，本格的には昭和 19 年から手びき鋸の鋸型，歯型，目立の試験研究に着手し，この成果を基にして，鎖鋸（動力）について歯型，目立，とくに材種に適応する切歯と掻歯の組合せと目立法の合理化について研究した。

さらに伐木，造材作業における作業時間の分析，作業者の疲労測定，使用器具機械の研究および雪上運材の合理化のための雪橇の研究などに着手したが，林産移転にともなう研究室の再編成により，支分場における作業研究は秋田，高知だけで施行する方針になり，研究者は高知へ転出，当分場としてはこれを中止した。

8. 経　　営

昭和 24 年，真室川営林署管内に試験地をつくり，コナラの萌芽，伐採方法と生長の関係などの調査に着手した。その他薪炭林の林相改良として，ニセアカシア，クヌギなどの育苗，山地植栽試験を行い，また東北各地の薪炭林について樹種改良や生長，伐採の方法時期などについて調査した。

さらに昭和 28 年には，農業綜合研究所積雪地方支所（新庄）と共同で山村民の国有林利用状況や山村労働力の需給構造などについての現地調査を行つた。しかし，これらの研究は，昭和 29 年，研究員が配置換されたので中止となつた。

×　　×　　×

造林研究室

9. 播種による林木育成の研究

（i） ポプラの育種

ポプラ類の交配，選抜を行つているが，そのうち昭和 18 年交配のアメリカヤマナラシ×ドロノキは現在（11 年後）樹高 16.8 m，胸高径 27.5 cm でかなり優秀な成績を示し，現在はこのさし穂による山地植栽試験を行つている。

（ii） 肥料試験

火山灰土壌におけるスギ，カラマツの施肥適量試験を行つている。

10. 肥料木の利用による林地肥培試験

スギ不成績地に対し，ヤシヤブシ，ヒメヤシヤブシ，シラハギ，アキグミ，などの混植を行い，造林木の生長を観察している。

11. 挿木および接木による苗木育成試験

（i） カラマツの挿木

昭和 16 年開始し，新梢の夏さしは，多湿な環境と相まつて，70~80 % 発根の好成績をおさめた。

（ii） スギの挿木

土性別，着葉量の差別，あるいはホルモン剤の施用などにより活着，発根の試験を行い，また枯損防止，発根促進のため葉面施肥試験などを行つている。

（iii） ヤマナラシの挿木

ヤマナラシは活着発根困難といわれているが，冬期間採穂，土中貯蔵によつて，かなり有望な成績をおさめている。

（iv） シラハタマツの接木

優良松である本種の絶滅がうれえられている折から接木による増殖試験を行つている。

保護研究室

12. 穿孔虫類の研究

昭和 22 年から 24 年まで，ブナ材とマツの穿孔虫について，主として，当地方重要種の消長を調査した。25 年以降は，ヒメスギカミキリの生態調査，ブナ穿孔虫の薬剤防除試験を行つてきた。

13. コガネムシ類の研究

25 年，加害の実態調査からはじめ，イザリア菌，各種殺虫剤による防除試験を行い，さらに，分布，生態などについて調査，研究をつづけている。

14. 一般森林害虫の研究

管内に発生した害虫について，そのつど，発生原因，消長，防除法を研究している。

15. 樹病の研究

育苗試験の一環として針葉樹稚苗の立枯病，スギの赤枯病などに関する試験を行つてきたのであるが，昭和 29 年からは，ヒノキの漏脂病，カラマツの落葉病，ポプラの病害などについて，病原・病理学的研究分野もとりあげている。

防災研究室

16. 気象観測

昭和 13 年から開始，現在では，測候所の一観測点として指定されている。あわせて，観測器の改良，とくに気象におよぼす森林の影響について研究を行つている。

17. 森林理水に関する研究

森林の洪水阻止，水源涵養および侵蝕防止の機能に関する研究であつて，針広混交の 2.5~3.1 ha のほぼ同形の谷で，昭和 14 年以来，量水試験をつづけてきた。昭和 23 年には一方を皆伐し有無林地の比較をし，さらに昭和29年からスギ人工林（純林），広葉樹林の 2 カ所の谷をえらび，同様の観測および実験を行つている。

18. 森林の雪害防止に関する研究

林木の雪害，雪崩の機構を明らかにするため，昭和 23 年から主として雪の力学的な究明に力をいれているが，一方雪害地の現地調査とその防除対策について研究している。

1. 金山の大杉参考林

林は金山町岸氏の所有であるが，1 町歩 1 万石以上の蓄積を有するものとして，以前から著明なものであつた。

昭和 23 年，嶽経営部長と当場員が，林分構造，生長量の精密な調査を行い〝蓄積日本一の造林地〟という折紙がつけられたものである。その後はこれを施業参考林として，当場で管理，経過の観察をつづけている。

年令　130 年　面積　1.452 ha
1 町歩当蓄積　9,202石（一部 10,555 石）
1 ha 当本数　475本　平均胸高直径　57.6 cm
平均樹高　39.8m　平均幹材積　19.5 石
年平均生長量　80 石

2. 実験林

理水試験，造林，保護の実地試験は，主として真室川営林署安楽城経営区 9 林班の一部を借り受け行つている。

昭和 28 年には分場周辺のスギ林約 21 ha が国有林から移換された。今後はこれで各種の試験が行われる予定である。

3. 苗畑

昭和 13 年から開こんし，現在区域面積 1.5 ha。当初は地力がきわめて貧弱で，大豆すら，ろくにとれない状態だつた。このため肥料試験などには，かえつて，あつらえむきでもあつたようだ。

その後は，堆肥の施用で地力も向上し，現在は各種の試験が行われている。

4. 肥料木植栽試験地

苗畑の西隣りにあるスギ伐採跡地 1.04 ha に昭和 25 年スギを植栽し，行間に根瘤菌を有するシラハギ，イタチハギ，ヤシヤブシ，ヒメヤシヤブシ，アキグミを種別に植え，根瘤植物の植栽木に及ぼす効果の試験を行つている。

5. ポプラの山地植栽試験地

昭和 18 年育成のアメリカヤマナラシとドロノキの交配種からさし穂によつて苗木を増殖しているが，昭和 28 年山形県東置賜郡中川村中山に植栽し生長経過を観察している。

6. 多雪地における造林試験地

耐雪性樹種の植栽試験として，昭和 27 年から，ちく次スギ，カラマツ，トドマツ，ヒバを植栽，計約 2 ha となつたが，今後広葉樹も試みる予定。毎年その生育状況，被害状況を調査している。また，昭和 25 年構内の一部にアカマツの斜植試験を行つたが，これは一応完了した。30年には，秋田営林局で管内多雪地の造林試験をはじめた。初年度はスギ，カラマツ，ヒバの混植，寄植約 1 ha であるが，これを今後とくに育林試験の対象としてみていきたい。

7. 混交林試験地

混交林が諸害に対して抵抗力が大きいという見地から，まずスギ，カラマツを混植し，さらに天然広葉樹の侵入を期待する試験地を設けた。スギ，カラマツは苗間 4 m，列間 5 m で，交互に 1 本植と 2 本づつのかため植えをしている。昭和26年設定，面積 0.6ha。

8. 理水試験地

森林の侵蝕防止機能と水源涵養性，すなわち治水と利水の両面を調べる目的で量水堰堤を設けた。昭和 13 年 6 月約 3.1 ha と 2.5 ha の 2 沢の堰堤および水位計室が完成，14 年 1 月 1 日から観測をはじめた。

昭和 23 年からは，一方はそのままの有林地，他は皆伐して無林地として比較試験を行つている。昭和 28 年 6 月には隣接地に新しい堰堤をつくつた。以上 3 沢は広葉樹天然林の燃材，用材の伐採後に，ヒノキ，スギの造林されたところで，新試験地は広葉樹だけとする計画である。ついで昭和29年12月には 1.1ha のスギ造林地をえらび堰堤を設けた。今後は針葉樹（スギ），広葉樹，針広混交，および無林地の 4 沢の比較を計画している。

9. 游水林試験地

游水林造林に適する樹種の選定を目的として，14 年理水試験地に併置された約 0.1 ha に計 273 本を等間隔に方形植栽を行つた（樹種は 10 種）。26 年には一応調査報告されたが今後 5 年ごとにあと数回の調査を予定している。

利用関係

鋸の歯型に就て	昭11. 11	釜淵試験地	潤葉樹利用抄報	1
鋸の捌き	11. 11	〃	〃	2
砥石の常識	12. 1	〃	〃	3
梱床板製材に於て加工仕上り幅9.0糎のものと7.5糎のものと何れが有利か	12. 6	〃	〃	4
イス材に対する帯鋸の歯距に就て	12. 7	〃	〃	5
自動帯鋸目立機の歯型記録装置	12. 8	〃	〃	6
イス材に対するテーブルバンドソーの歯型に就て	12. 8	〃	〃	7
ナラ材に対する大割帯鋸の歯型に就て	12. 9	〃	〃	8
ナラ用大割帯鋸の歯距に就て	12. 12	〃	〃	9
円鋸製材に於ける薄鋸の使用 (1)	13. 4	〃	〃	10
ブナ厚板人工乾燥進行中に於ける材中の水分分布について	13. 4	真室川営林署 大島鑿郎	林学会講	11
仕訳指に就て	13. 9	釜淵試験地	潤葉樹利用抄報	11
円鋸製材に於ける薄鋸の使用 (2)	13. 9	〃	〃	12
イス製材用帯鋸の歯型に就て	13. 3	斎藤美鶯 片岡哲蔵	林試彙報	44
ブナ床板製材に於ける製品巾と製材歩止の関係に就て	13. 3	斎藤美鶯 土屋博	〃	44
潤葉樹製材用帯鋸の歯型に関する一考察	13. 4	斎藤美鶯	林学会講	
潤葉樹製材に於ける丸太径級と製材歩止との関係に就ての一考察	13. 4	土屋博	〃	
円鋸製材に於ける薄鋸の使用に就て (1)	13. 4	片岡哲蔵	〃	
〃 (2)	14. 4	〃	〃	
潤葉樹製材工場に於ける作業能率増進に関する二，三の考察	14. 4	安川栄喜	〃	
所謂国産帯鋸の使用に就て	16. 4	片岡哲蔵	〃	
二，三の製材歩止に就て	17. 4	片岡哲蔵 山口喜弥太	〃	
製材用鋸の厚さに就て	18. 2	釜淵試験地	潤葉樹利用抄報	15
製材屑木の層積と実績の関係	18. 2	〃	〃	16
ブナ帯鋸製材に於ける歯距に就て	18. 2	〃	〃	17
サハグルミ材に対する帯鋸歯型	18. 3	〃	〃	18
帯鋸ノーバツクによる製材試験	18. 3	〃	〃	19
帯鋸の蠟接に就て	18. 3	〃	〃	20
帯鋸の緊張量に就て	18. 3	〃	〃	21
ホホ耳付板製材に於ける径級別製材歩止附（ホホ材に対する帯鋸歯型）	18. 3	〃	〃	22
帯鋸の腰入に就て	18. 3	〃	〃	23
製材機械及製材工場の標準型に就て	18.	〃	〃	24
鋸屑及其の容積測定に関する調査	18. 5	〃	〃	25
木工試験成績	17. 11	真室川営林署 釜淵試験地	〃	26

エンドマツチヤーの円鋸に就て	昭17. 11	真室川営林署 釜淵試験地	潤葉樹利用抄報	26
人工乾燥室内壁用亜鉛鍍鉄板の防錆剤に就て				
研磨用砥石の種類と鉋刃の切削機能との関係に就て				
研磨用冷却剤の使用と削刃の切味との関係に就て				
鉋刃研磨作業に於ける仕上砥の種類と鉋刃の切味との関係に就て				
三方削鉋機の操作に就て				
木工機の加工能率調査				
倉庫内に於ける温湿度と外部の温湿度との差				
倉庫内に於ける木材含水率の変化				
棧積法の良否と人工乾燥の成績				
含水率試験材の採取時の木口よりの距離				
絶乾温度による木材の含水率誤差				
簡易乾燥器の試作並に使用試験				
ブナ人工乾燥鉋削材に於ける切削角及材の送り速度等と光沢度との関係				
ブナ材に於ける材の含水度と鉋刃の角度に関する研究				
スギ小径木の製材歩止に就て	18. 5	釜淵試験地	潤葉樹利用抄報	27
帯鋸盤の鋸速度に就て	18. 5	〃	〃	28
汽罐の所要燃料に就て	18. 6	〃	〃	29
円鋸の腰入量と製材の関係	18. 6	〃	〃	30
純国産帯鋸使用試験	18. 6	〃	〃	31
木取法及製材機の種類と製材能率に就て	18. 6	〃	〃	32
鋸目立用撥出器に就て	18. 6	〃	〃	33
鋸目立用撥揃器に就て	18. 6	〃	〃	34
製材作業に於ける挽材上の故障の原因	18. 6	〃	〃	35
鋸標準歯型に就て	18. 7	〃	〃	36
鋸歯の歯距に就て	18. 7	〃	〃	37
製材能率の向上方策に就て	18. 9	〃	試験抄報	39
女子目立工の養成に就て	18. 9	〃	〃	40
木造骨組の木工機械に就て	18. 9	〃	〃	41
帯鋸の切削所要力に就て	18. 10	〃	〃	42
鋸歯へ樹脂の附着する場合の対策	18. 10	〃	〃	44
帯鋸の抗張力に就て	18. 11	〃	〃	46
円鋸の薄鋸使用 (3)	18. 11	〃	〃	49
繊維板鋸挽円鋸の歯型及目立に就て	18. 11	〃	〃	50

女子製材鋸目立工の成績	昭19. 2	釜淵試験地	試験抄報	54
帯鋸の鐵接部 25 ケ所の鋸の使用試験	19. 5	〃	〃	55
帯鋸に依る強化積層材製材の目立法について	20. 3	〃	〃	58
円鋸プレーナソーの目立に就て	20. 7	〃	〃	61
帯鋸目立機具に就て	19. 3	片岡哲蔵 山口喜弥太	林試報告	39
円鋸製材に於ける薄鋸の使用に就て	19. 3	斎藤美鶯 片岡哲蔵	〃	39
植物性人造板の新原料と其製造法	18. 4	相山藤吉	林学会講	
曹達クラフトパルプ製造法について	17. 4 18. 10	〃	〃 試験抄報	45
植物性人造板に就て	18. 11	〃	〃	47
続植物性人造板に就て（性質その他）			〃	48
繊維板の加工塗布試験（ヴイスコース法）			〃	62
硬質繊維板の製造試験			〃	63
繊維板の吸水膨脹試験			〃	64
加圧（冷圧）繊維板試作の概要			〃	65
耐水繊維板（地下建築材料屋根葺材料）の製法について			〃	66
繊維板の人工乾燥について			〃	67

作業関係

ブナ丸太の管流に就て	昭18. 2	釜淵試験地	濶葉樹利用抄報	13
ブナ丸太の水中貯材試験	〃	〃	〃	14
伐木造材用手挽鋸の常識について	18. 8	〃	試験抄報	38
ヤシ伐木造材用手挽鋸の歯型及目立について	18. 10	〃	〃	43
硬木伐木造材用１人挽手挽鋸について	19. 11	〃	〃	51
窓鋸撮歯の目立方法について	19. 12	〃	〃	52
サワグルミ伐木造材用手挽鋸の歯型及目立	19. 12	〃	〃	53
手挽鋸々断能率増進について	19. 12	宮川信一	山林	745
中庸硬度伐木造材用の１人挽手挽鋸の歯型及目立	20. 2	釜淵試験地	試験抄報	56
伐木造材用手挽鋸の目立について	20. 6	〃	〃	59
伐木造材用標準１人挽手挽鋸について	20. 7	〃	〃	60
伐木用鋸の歯型について	21. 5	宮川信一	みちのく	4
窓鋸の使用を勧む (1)	22. 11	〃	山林	768
窓鋸の使用を勧む（承前）	22. 12	〃	〃	769
斫伐作業機械化促進の機運に因んで	23. 4	〃	〃	772
斫伐作業機械化促進の機運に因んで（承前）	23. 7	〃	〃	774

今後の伐木用手挽鋸の諸問題	昭24. 1	宮川信一	日本鋸工業振興会々報，研究号	
伐木造材用手挽鋸の製法と改良	24. 2	〃	山林	780
林業機械化	25. 11	〃	林業技術	107
雪橇の静摩擦に関する二，三の模型実験報告	26. 6	〃	林試集報	60
自動鋸による伐木造材作業の得失と合理化について	26. 7	〃	林業技術	113
伐木造材用手挽鋸の目立法 (1)	26. 8	〃	山林	807
伐木造材用手挽鋸の目立法 (2)	26. 9	〃	〃	808

経営関係

コナラの伐採期日と萠芽するまでの日数との関係	昭26. 1	菊谷昭雄	秋研時	1
コナラの萠芽生長と之に関聯する 2，3 の因子について	27. 3	舟山良雄	〃	3
薪炭林の施業法改善(第２報)コナラ萠芽の生長について	27. 4	〃	日林講	61
薪炭林の施業法改善（第３報）伐採期節の生長におよぼす影響	27. 4	〃	〃	61
ニセアカシア萠芽林の調査成績	27. 6	舟山良雄 小坂淳一	林業技術	124
コナラの生長量	27. 7	舟山良雄	日林東北支	3(1～3)
コナラ萠芽の初期伸長の解析	27. 7	菊谷昭雄	秋研時	4
コナラの萠芽本数と胸高直径伐根直径との関係	27. 7	舟山良雄	〃	4
施肥，耕耘がニセアカシアの樹高生長に及ぼす影響	28. 4	〃	日林講	62
薪炭林の改良と樹種の問題	28. 5	〃	林業技術	135
コナラの木部に貯えられた澱粉の季節的変化	28. 6	菊谷昭雄	日林誌	35(6)
国有林野地元利用状況実態調査報告（18），山形県北村山郡高崎村	29. 2	岸英次 舟山良雄 杉山茂	林野庁調査課	
地元における国有林労働の需給構造に関する実態調査報告書　第３章　最上郡安楽城村高坂部落	29. 3	舟山良雄 杉山茂	山形県国有林野経営協議会	
山林労働力の需給構造	29. 4	舟山良雄 杉山茂	日林講	63

防災関係

根雪期間と杉の肥大生長との関係	昭23. 8	四手井綱英	雪	1
下枝の埋雪と積雪高との関係	23. 8	〃	〃	
林木の雪害	23. 8	塩田勇	〃	
林相別による積雪深について	23. 8	片岡健二郎	〃	
消雪促進試験成績	23. 8	伊藤浅治	〃	
苗畑に於ける消雪促進効果	23. 8	児玉武男	〃	
防雪柵の機能（第１報）	23. 12	四手井綱英 伊藤浅治	林試集報	57

積雪と森林	昭24. 1	四手井綱英	秋田営林局	
防雪柵の実験と山形地方の積雪の分布との相似性について	24. 4	〃	雪	2
森林と積雪	24. 4	〃	雪氷十年	
森林の雪害	24. 4	〃	〃	
笹森積雪防止試験地の現況を見て	24. 4	塩田勇 片岡健二郎	雪	2
防雪柵を利用した融雪促進	24. 4	伊藤浅治	〃	
釜淵に於ける降雪と風向との関係について	24. 4	片岡健二郎	〃	
スギ挿木養成苗の雪害に関する一実験	24. 11	四手井綱英	雪	3
運材雪路の雪質	24. 11	伊藤浅治	〃	
吹雪の形態調査成績	24. 11	〃	〃	
雪質に関する調査—主として積雪の曲げ強度について	25. 2	四手井綱英	雪氷	11(5)
苗畑に於ける消雪促進効果	25. 5	四手井綱英 児玉武男	雪	4
肘折の雪害について	25. 5	塩田勇	〃	
積雪の沈降力 (第2報)	25. 6	四手井綱英 高橋喜平	林試研報	44
幼令林の雪害	25. 7	高橋喜平 塩田勇	林試集報	58
なだれ止め階段工計算式の一試案	25. 7	四手井綱英	雪連資料	7
雪質に関する調査 — 積雪の加圧剪断試験	25. 8	〃	雪氷	12(1)
木柱で沈降力を支持した場合スギ幼令林に及ぼす影響	25. 8	〃	雪	5
木材硬度計を利用した積雪の硬度測定	25. 8	小野茂夫	〃	
撒土による消雪効果の調査	25. 8	塩田勇	〃	
林相による積雪深の変化 (第1報, 第2報)	25. 9	四手井綱英 片岡健二郎	雪連資料	7
木材硬度計を利用した積雪の硬度測定器	25. 11	四手井綱英	雪氷	12(3)
積雪の沈降力 (第3報)	25. 12	四手井綱英 高橋喜平	〃	12(2)
積雪表面からの蒸発	25. 12	四手井綱英 児玉武男	雪	6
アカマツの雪害	26. 2	四手井綱英	雪連資料	9
苗畑における消雪促進効果	26. 3	四手井綱英 児玉武男	雪氷	12(5)
積雪と森林	26. 4	四手井綱英 高橋喜平	林技シリーズ	23
雪代洪水について	26. 6	四手井綱英	雪	7
樹冠に積る雪量の模型実験	26. 6	〃	〃	
雪とスギ幼令林の成育に関する調査	26. 6	小野茂夫	〃	
植栽角によるアカマツの雪害について	26. 6	片岡健二郎	〃	
積雪 (雪の積り方)	26. 6	高橋喜平	〃	
有無林地の流量とくに雪代洪水について	26. 6	四手井綱英	山形県積雪調査報告	
有無林地表層土の含水量の変化について (第1報)	26. 6	四手井綱英 菅原敬二 片岡健二郎	林試集報	60

雪のレプリカ	昭26. 7	四手井綱英	雪氷	13(1)
斜植について	26. 7	〃	日林東北支	2(1)
奥羽地方の森林帯 (予報)	27. 2	〃	〃	2(2)
昭和24年2月24日山口県河武郡川上村に発生したスギ造林地の風雪害調査報告	27. 3	高橋喜平 塩田勇	林試集報	62
積雪の密度資料	27. 6	雪害研究室	〃	63
遊水林植栽樹種経過報告	27. 6	四手井綱英 猪瀬寅三	〃	
植栽密度がスギ幼苗の生育に及ぼす影響について	27. 6	四手井綱英	青森林友	45
積雪の遠心分離による含水量測定	27. 6	〃	雪	9
変相式浮力差法による積雪含水量測定—予備実験—	27. 6	菊谷昭雄	〃	
豪雪について	27. 7	片岡健二郎	雪	10
積雪面上の気温の垂直分布	27. 7	小野茂夫	〃	
冠雪の被害調査	27. 7	高橋敏男 伊藤浅治	〃	
積雪の樹木に及ぼす影響	27. 8	四手井綱英	日林講	61
釜淵森林理水試験 第1回報告	27. 9	丸山岩三 猪瀬寅三	林試研報	53
冠雪の研究 (第1報)	27. 9	雪害研究室	〃	54
釜淵気象流量報告 (昭 13～25)	27. 9	防災研究室	プリント	
表層雪崩の一特異例	28. 3	四手井綱英	雪氷	14(4)
冠雪による林木の被害	28. 5	高橋敏男	雪連資料	27
雪質の調査資料	28. 6	雪害研究室	林試研報	62
冠雪	28. 7	高橋敏男	日林東北支	3(1～3)
トドマツの生育温度	28. 7	四手井綱英	〃	
スギ幼令林の雪害と枝打ち	28. 8	小野茂夫	蒼林	4(8)
積雪の沈降	28. 9	高橋敏男	日雪氷講	
冠雪の研究	28. 11	〃	雪氷の研究	1
斜面の積雪移動圧	28. 11	四手井綱英	〃	
積雪の沈降力	28. 11	〃	〃	
雪崩と森林雪害との報告	28. 12	四手井綱英 高橋敏男	山形県御所山総合調査報告書	
雪量計の口径と測定値	29. 6	片岡健二郎	東北気象研, 講	
遠心分離による積雪の含水量測定	29. 8	四手井綱英 菊谷昭雄	雪氷	15(6)
雨雪量及び融雪量の精度	29. 8	高橋敏男	日雪氷講	
山地降水量と流出土砂量に関する調査報告	29. 12	〃	山形県林務課	
月山の積雪調査報告	29. 12	小笠原和夫 四手井綱英	雪氷	16(4)
枝葉の冠雪	29. 12	片岡健二郎	〃	16(3)
体積差による積雪含水量の測定	30. 1	高橋敏男 坂貞雄	雪氷の研究	2

手廻し遠心分離器による積雪の含水量測定	昭30. 1	菊谷昭雄	雪氷の研究 2

造林関係

からまつ挿木繁殖法	昭18. 6	猪瀬寅三	農業世界 386
カラマツの挿木苗養成に就て	20. 2	釜淵試験地	試験抄報 57
挿木造林特にからまつ挿木苗養成法	22. 7	〃	国土再建造林技術講演集 青森林友会
カラマツ苗の生育と肥料成分との関係	26. 10	四手井綱英 塩田勇	秋研時 1
スギ床替苗の平均生長と枯損率との関係	27. 3	四手井綱英	〃 3
カラマツ苗の生育と肥料成分との関係 窒素の形態と燐酸との関係	27. 7	塩田勇 佐藤勲 佐藤久男	〃 4
カラマツ床替苗に2年連続同一肥料を同一分量施した場合の例	27. 7	〃	〃 4
からまつの挿木	27. 8	塩田勇	日林東北支 3(1～3)
秋田県北部のスギ苗畑の霜害	27. 12	〃	蒼林 3(12)
トゲナシニセアカシアと増殖	28. 2	〃	秋研時 5
白旗松	29. 8	〃	アカマツ，クロマツ 林業総説 林試発行
ポプラの育種と経過	29. 9 12	〃	青森支場研究だより 47，50

保護関係

ブナの穿孔虫	昭24. 8	高橋良雄	採集と飼育 11(8)
ネキリムシの一趨性	26. 1	余語昌資	日林東北支 1(2)
ネキリムシの分散	26. 1	〃	〃
秋田営林局管内の病虫害	26. 1	〃	秋研時 1
水林国有林における松樹害虫の餌木による誘引試験	26. 5	高橋良雄 伊藤陳重	日林講 59
男鹿半島 シナノキの被害	26. 12	余語昌資	秋研時 2
ハラアカマイマイについて	26. 12	〃	〃
ブナ穿孔虫について (上)	27. 5	高橋良雄	蒼林 3(5)
〃 (下)	27. 6	〃	〃 3(6)
ヒノキの枯死原因	27. 7	余語昌資 三浦哲夫 遠田暢男	秋研時 4
ネキリムシの共喰現象	27. 7	余語昌資	〃 4
DDTの使い方など	27. 7	〃	蒼林 3(7)
カタビロトゲトゲの伝ぱん	27. 7	〃	日林東北支 3(1～3)
コガネムシの産卵地選択	28. 2	〃	秋研時 5
螢光灯周辺のネキリムシの密度	28. 2	遠田暢男 小林民治	〃 5

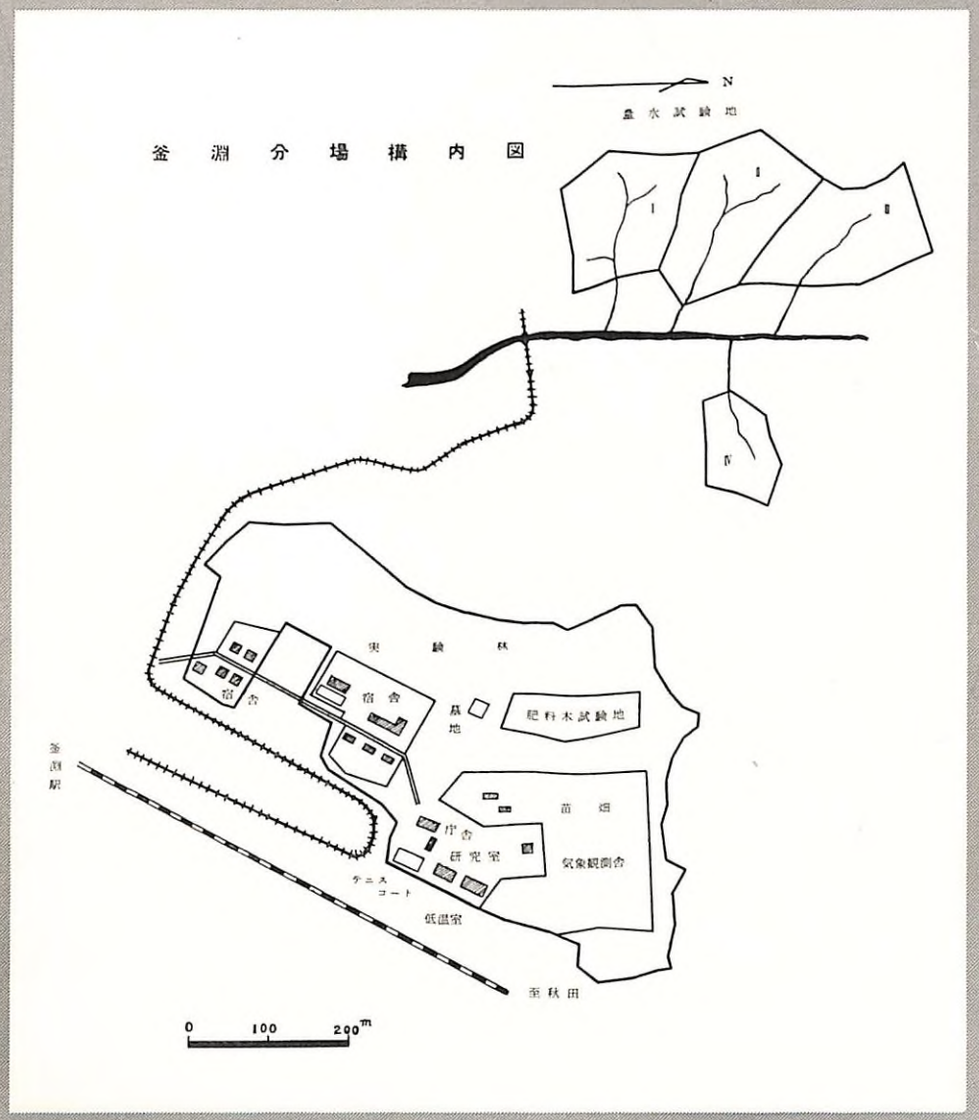
ヒメコガネ幼虫に対する冬期の土地条件，とくに低温の影響	昭28. 4	余語昌資 遠田暢男	日林講 62
ブナ材のピンホール虫	28. 4	余語昌資	植物防疫 7(3～4)
ポプルスの害虫	28. 11	〃	防疫ニュース 20
ヒメスギカミキリの産卵（加害）木の選択	29. 4	〃	日林講 63
コガネムシ類の棲みわけと優占種の推移	29. 4	〃	応用昆虫講
モモノゴマダラメイガの天敵	29. 3	〃	防疫ニュース 24
森林昆虫のサーベイ	30. 7	余語昌資	〃 40
コガネムシ産卵と前作物（とくに緑肥植物）との関係	30. 8	小林民治	日林東北支講
カラマツ苗立枯病罹病度に及ぼす施肥量の影響	25. 6	四手井綱英 塩田勇	日林 32(6)
スギ蒔付床の消毒試験	26. 10	釜淵分場	秋研時 1
スギ赤枯病の伝染	26. 12	四手井綱英	〃 2
カラマツの落葉病について	28. 8	伊藤一雄	防疫ニュース 17
マツの病害についての 2，3 の問題	29. 3	〃	〃 24
ヒノキの漏脂病について	29. 7	〃	〃 28
スギ造林地枝枯病の激害地をみて	29. 10	〃	〃 31
カラマツ苗のくもの巣病	29. 11	〃	〃 32
マツのこぶ病—主として苗木の場合について—	30. 5	〃	〃 4(5)
カラマツ落葉病の研究—特に病原菌の生活史（予報）	30. 8	伊藤一雄 佐藤邦彦 太田昇	日林東北支講
ハンノキ類のさび病	30. 8	伊藤一雄	防疫ニュース 4(8)
リゾクトニア菌による黄花ルーピンの萎凋病（根腐病）	30. 9	〃	〃 4(9)
マツ苗の雪腐病（灰色かび病）	30. 10	〃	〃 4(10)

氏名	官職	期間	担当業務	備考
柴田　栄	技手	昭〔10.6.31〕～11. 1.14	兼任　真室川営林署長	
斎藤美鶯	技官	〃〔10.5.31〕～21.10.15	主任	本場木材部長
土屋　博	技手	〃10.11. 7～14.12.31	利用	戦死
大島愨郎	技師	〃11. 1.14～13. 4.24	兼任　真室川営林署長	戦死
海津正明	雇	〃11. 1.20～14. 2.20	庶務	柏崎市役所
長岐義蔵	助手	〃11. 3. 3～14. 4.11	利用	秋田県林業試験場
片岡哲蔵	技官	〃11. 5.30～21. 4.30	利用	北海道庁林業指導所
鈴木鋼太	助手	〃11. 6. 3～22.12.16	利用	自営
古瀬未治	定夫	〃11. 8.20～11.10.30	利用	——
大山孫四郎	助手	〃11. 9.20～25.11.15	利用	本場木材部
八木光雄	助手	〃11.11.30～12. 4.24	利用	死亡
笠原新二	助手	〃11.11.30～11.12.15	利用	死亡
大沼康太郎	属	〃12. 6.18～15. 2.26	庶務	本場会計課
小谷部禎一	職工	〃12. 6.30～20. 9.30	利用	
猪瀬寅三	技手	〃12.12.11～19. 4.15	造林　治水	林野庁研究普及課
西宮正三	技手	〃13. 1. 6～15. 5.15 〃16. 9.12～17.12.13 〃19. 8. 2～21. 5.28	治水　庶務	好摩分場
布宮　正	定夫	〃13. 4.15～13. 6.18	利用	——
安川栄喜	技師	〃13. 7.12～14.12.28	兼任　真室川営林署長	死亡
山口喜弥太	技官	〃13. 8.22～25. 5.31	利用	本場木材部
長岐杼子	定夫	〃13. 8.22～14. 3.28	利用	旧姓　横山
栗田　力	助手	〃13. 8.22～25.11.15	利用	本場木材部
高橋六郎	技官	〃13. 8.22～	利用　造林	釜淵分場
高橋正一	雇	〃13. 9.20～19. 3.31	庶務	死亡
中川新一	定夫	〃13.11.10～不明	利用	真室川営林署
菅原茂蔵	助手	〃13.12.20～	治水　造林	釜淵分場
赤塚豊一郎	職工	〃14. 3.20～14.11.30	利用	——
井上繁子	助手	〃14. 3.31～16.11.29	治水	旧姓　栗田
菅原泰作	事務官	〃14. 6.20～15. 6.19 〃17. 6.12～30. 5.15	治水　庶務	熊本支場
黒田一郎	技手	〃14.11.22～16. 7.17	利用　主任事務取扱	北海道林業指導所次長
矢沢頼忠	技師	〃14.12.28～17. 5.11	兼任　真室川営林署長	山梨県林務部長
岡崎　功	属	〃15. 2. 8～16. 9. 5	庶務	死亡
相山藤吉	技手	〃15. 3.24～21. 5.28	パルプ	自営
猪股チエ	雇	〃15. 3.31～19. 3.31	庶務	——
高橋良雄	技官	〃15. 4.10～24. 9.15	治水　昆虫	真室川営林署
土崎子吉	職工	〃15. 8.30～15.10.31	——	——
猪股　孝	技官	〃15.10.14～25. 6.30	治水　利用	東京営林局
今野高蔵	助手	〃15.10.21～	木工	釜淵分場
栗田マス子	助手	〃15.10.21～21. 5.31	パルプ	——
庄司要作	事務官	〃15.10.21～29. 2.16	利用　庶務	本場木材部
並木栄司	助手	〃16. 1.20～21. 4.12	パルプ	——
高橋幸栄	助手	〃16. 2.21～18. 1.12	治水	死亡
高橋春子	助手	〃16. 4. 2～20. 9.30	利用	死亡

氏名	官職	期間	担当業務	備考
中川アサ子	業手	昭16. 5.16～	造林　パルプ	釜淵分場
中村　章	嘱託	〃16. 6. 5～17. 1.13	利用	旧姓草間 本場木材部研究室長
渡部松雄	事務官	〃16. 7.14～19. 4.15 〃30. 5.16～	治水　造林　庶務	釜淵分場
宮川信一	技官	〃16. 7.16～25. 9.15	作業研究室長	木曾分場研究室長
天野一郎	技師	〃16. 7.17～18.11.	兼務　主任事務取扱	戦死
菊地文彦	技官	〃16.10. 7～19.12.26 〃21. 5.28～25. 5.31	パルプ	本場林産化学部
矢萩ミキ	助手	〃17. 4.10～18. 9.13	治水	——
栗田ウラ子	技官	〃17. 4.10～	治水　保護	釜淵分場
青山安蔵	技官	〃17. 4.24～	造林	釜淵分場
吉川洸一	技師	〃17. 5.11～21. 4. 9	兼任　真室川営林署長	大阪営林局山崎営林署長
井上金作	業手	〃17.10.29～21. 4.25	パルプ	——
児玉武男	技官	〃18. 2. 5～	造林	釜淵分場
佐藤与次郎	業手	〃18. 6.30～19. 5.18	利用	死亡
井上栄子	技官	〃18. 8.16～	防災	釜淵分場
大場英貴子	助手	〃19. 1.15～21. 5.28	治水	死亡
和田定治	業手	〃19. 1.16～20. 9.19	大工	——
片岡ヨシ子	助手	〃19. 3.16～26. 6.15	防災　パルプ	旧姓　千川原
佐藤キミ子	助手	〃19. 3.16～24. 6.15	庶務	——
柴田忠松	技官	〃19. 4.21～25.11.25 〃28. 3. 1～	利用　昆虫	釜淵分場
伊藤勝見	技官	〃19. 7.25～	利用　庶務	釜淵分場
佐藤ヒメ子	助手	〃19.10.31～20.11.20	庶務	——
庄司藤太郎	助手	〃20. 1.31～	造林	釜淵分場
片岡健二郎	技官	〃20. 3.31～	防災	釜淵分場
今宮寿昭	助手	〃20. 4. 9～21. 3.29	作業	——
猪股サダ子	技官	〃20. 4.15～27.10.31	庶務	——
伊藤フサ子	事務官	〃20. 4.25～	庶務	釜淵分場
今野清蔵	助手	〃20. 9.25～22. 4.10	利用	——
山口幾久枝	雇	〃20. 9.25～25.11.15	庶務	本場会計課
栗林　博	助手	〃21. 3.14～21. 7.31	パルプ	林振好摩作業所
田谷　清	助手	〃21. 3.14～21. 7.31	パルプ	——
永井芳雄	技師	〃21. 4. 1～21. 9.30	特殊林産	——
大内　晃	技官	〃21. 4. 9～22.12.25	兼任　真室川営林署長	本場経営部研究室長
三浦哲夫	技官	〃21. 6.21～	利用　防災　昆虫	釜淵分場
菅原チカ子	雇	〃21. 6.27～25. 9.30	庶務	旧姓松井
柏倉瑞子	業手	〃21. 7. 5～22.12.31	——	——
高橋カタ子	業手	〃21.11.16～24. 6.15	造林	旧姓　姉崎
遠田　伝	業手	〃21.12.12～27.11.30	利用	本場木材部
高橋三之助	技官	〃21.12.12～	造林	釜淵分場
川崎修吾	技官	〃22. 1.27～23. 8.31	主任～分場長（兼） 真室川営林署長	青森営林局利用課長
板垣ミツ	副手	〃22. 4.19～	庶務	釜淵分場
児玉芳郎	助手	〃22. 5.15～25. 6.30	利用	本場木材部

在職職員名簿

氏名	官職	期間	担当業務	備考
星川吉之助	技官	昭22. 6.15～30. 3.31	防災	高島分場
塩田勇	技官	〃22. 8. 1～	造林研究室長	釜淵分場
大場安之助	副手	〃22.11. 1～27. 5.31	造林	自営
川口利次	技官	〃22.12.26～	昆虫	釜淵分場
四手井綱英	技官	〃23. 3.10～27. 8.31	分場長	京大教授
小野茂夫	技官	〃23. 3.31～	防災	釜淵分場
佐藤勲	技官	〃23. 3.31～29. 3.31	庶務	旭川営林局
佐藤久男	技官	〃23. 4. 1～	造林	釜淵分場
遠田武	業手	〃23. 4. 6～	造林	釜淵分場
星川陽吉	業手	〃23. 7.31～	造林	釜淵分場
佐藤正平	業手	〃23.11. 5～	防災	釜淵分場
孕石正久	技官	〃23.12.10～27. 3.31	兼任 真室川営林署長	経済企画庁
菅原敬二	事務官	〃24. 1.15～25.12.31	庶務	秋田支場
遠田暢男	技官	〃24. 4. 1～	昆虫	釜淵分場
大場貞男	副手	〃24. 4. 1～26. 9.30	庶務	秋田支場
伊藤浅次	助手	〃24. 7.31～	防災	釜淵分場
舟山良雄	技官	〃24. 8.31～29. 3.31	経営	本場経営部
余語昌資	技官	〃24. 9.15～	保護研究室長	釜淵分場
大場智也子	業手	〃24.10.31～25.12.20	庶務	——
菊谷昭雄	技官	〃25. 4. 1～30. 6.30	防災	本場防災部
高橋敏男	技官	〃25.11. 1～	防災研究室長	釜淵分場
大場秀敏	業手	〃26. 4. 1～27. 3.31	庶務	秋田支場
黒井アヤ子	事務官	〃26. 4. 1～	庶務	釜淵分場
小笠原重助	業手	〃26. 4. 1～26. 8. 1	経営	——
岡崎ヒサ	業手	〃26. 8. 1～30. 3.15	経営	——
小坂淳一	技官	〃26. 8. 1～29. 3.31	経営	秋田支場
小林民治	技官	〃27. 5. 1～	昆虫	釜淵分場
近藤幸夫	技官	〃27. 6. 1～29. 9.16	経営	旭川営林局
伊藤一雄	技官	〃27. 9. 1～	分場長	釜淵分場
富岡芳男	事務官	〃28. 4. 1～	庶務	釜淵分場
栗田礼子	技官	〃28. 5. 1～	看護婦	釜淵分場
佐藤稔美	業手	〃30. 3.16～	造林	釜淵分場
遠藤泰造	技官	〃30. 7. 1～	防災	釜淵分場



金山の大杉林